



総合周産期センターアドバンス助産師の活動

日本赤十字社医療センター看護部 馬目裕子

日赤医療センター周産期部門のあゆみ

- 1886年 博愛社病院がルーツ
- 1922年 日本赤十字社産院が開設
- 1972年 日赤中央病院と産院が統合され**日本赤十字社医療センター**へ
- 1975年 **「助産婦外来」 設立**

医療センター初代院長小林隆先生の全面的な協力で、3年の準備期間を経て開始
助産師学校継続事例を中心として妊娠～分娩～産後まで継続したケアを実践
- 1988年 **母乳外来の開設**
- 1992年 院内「母乳育児の会」 結成
- 1993年 完全母子同室制導入
- **1994年 フリースタイル出産導入**
- **1997年 「マザーケア外来」 へ**

ローリスクだけでなく、ハイリスクにも助産師のケアが必要であるという、
前センター長杉本充弘先生の方針のもと、助産師外来の対象を拡大。
- 1998年 母子訪問の開始

日赤医療センター周産期部門のあゆみ

- 2000年 『赤ちゃんにやさしい病院（BFH）』認定
- 2001年 東京都総合周産期医療センター認定
- 2005年 「チーム健診」へ
ハイリスク妊婦も含め、すべての妊婦健診を医師と助産師で分担するシステムへ
- 2006年 水中出産対応開始
- 2009年 東京都母体救命対応総合周産期医療センターに指定
- 2012年 分娩件数3000件超える。入院期間の短縮
《母子訪問に変わる産後支援の必要性》
- 2018年 助産師による継続ケアシステムを開始
- 2019年 産後ケア入院受け入れ開始 ドクターカー運用開始
- 2020年 希望による硬膜外麻酔分娩への対応開始
- 2022年 日本赤十字社本部産院開設より100周年
COVID-19陽性妊産婦の受け入れ、濃厚接触新生児の対応
- 2023年 産院から通算して30万件目の分娩

周産期センターの概要

分娩件数 **1831件/年** 母体搬送 **228件/年**
NICU・GCU入院件数 **485件/年** (2021年実績)

- 産科外来・小児保健部
- NICU 15床
- GCU 40床
- 分娩ユニット 分娩室 8室 手術室 2室
- MF-ICU 6床

産科病棟 (2病棟) 計 90床

- 5Aユニット 33床+5床
(ほかに分娩予備室12床)
- 5Bユニット 52床

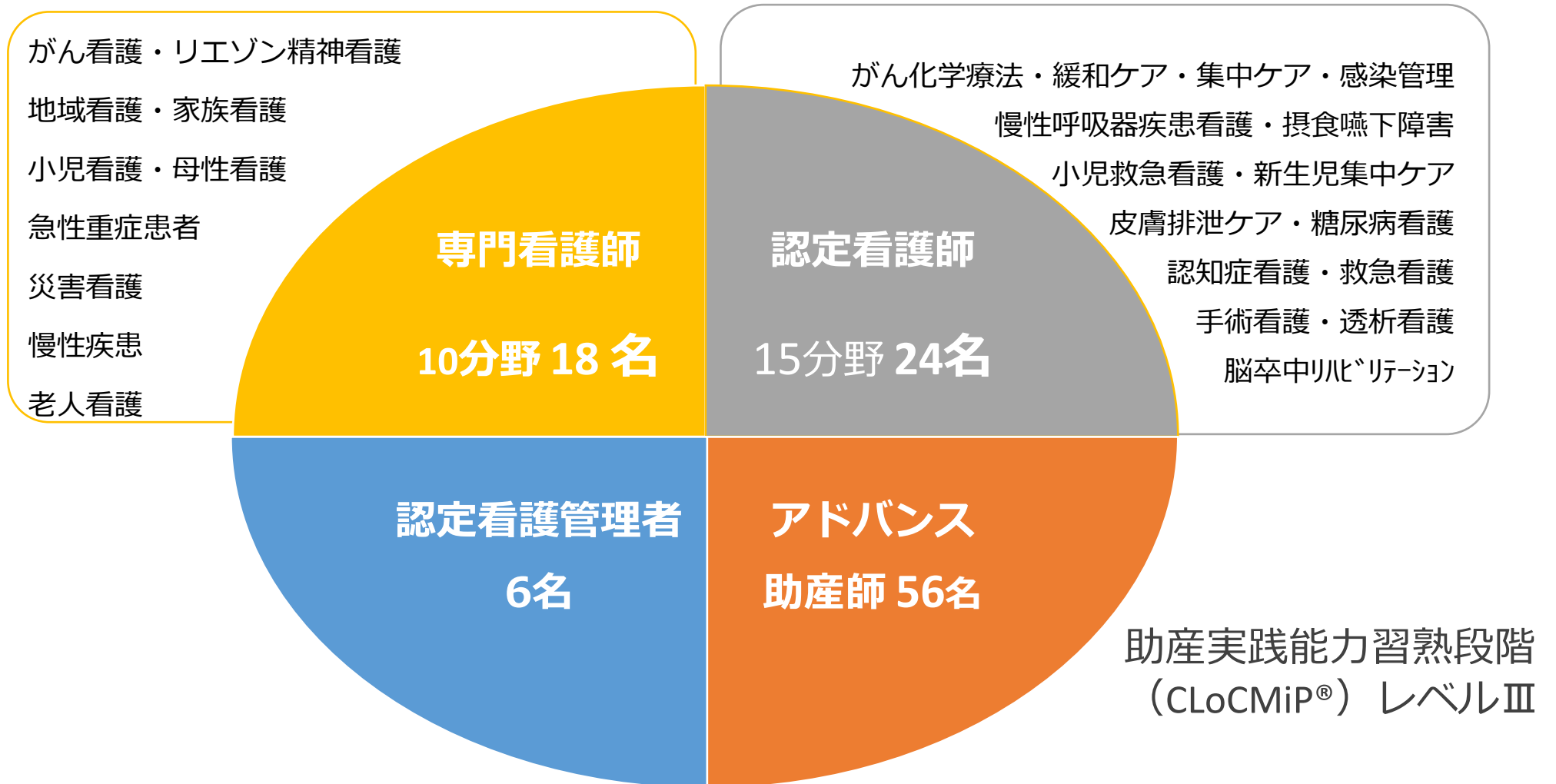
助産師養成施設 3校 (60名)
看護師養成施設 3~4校

毎年約20名の新人助産師採用



課題は助産師の
ローテーション

当センターの認定資格取得状況





助産師による 継続ケア制度

2018年9月「継続ケア制度」開始

【継続ケア制度とは】

本制度は対象の背景やニーズに応じ助産師が妊娠期から産後まで継続した助産ケアを提供することを目的とし、継続ケアに参画することで助産師の実践力強化を目指すものである。

助産師にとっては助産実践能力向上の機会となり、アドバンス助産師申請要件に必要な実践を保障する制度である。

継続ケア制度に期待すること

自部署では経験できない学びの場

妊娠期～子育て期を通じた，助産実践能力の向上



利用者の満足度向上

助産師のモチベーション向上



結果として...

アドバンス助産師の申請・更新につながる

継続ケア制度継続上の課題

- 大規模周産期施設・シフト制勤務での限界
- 時間内業務で提供できるケアの限界
- 勤務調整の困難さ
- 時間外労働時間の保障
- 労働者の権利意識の高まり



開業助産師の オープンシステム

周産期医療ネットワークグループ（東京都）

地域で支える周産期医療体制のイメージ

低

妊娠のリスク

高

妊婦健診
のみ
実施施設

紹介

一次医療機関
〈ローリスク対応〉

診療所等



紹介
搬送

二次医療機関
〈ミドルリスク対応〉

周産期連携病院等



紹介
搬送

三次医療機関
〈ハイリスク対応〉

総合周産期
母子医療センター



母体救命対応



地域周産期
母子医療センター
・大学病院等



助産所

紹介・搬送

周産期医療ネットワークグループ

一次施設も周産期医療を共に支える→地域でのチーム医療

オープン・セミオープンシステム

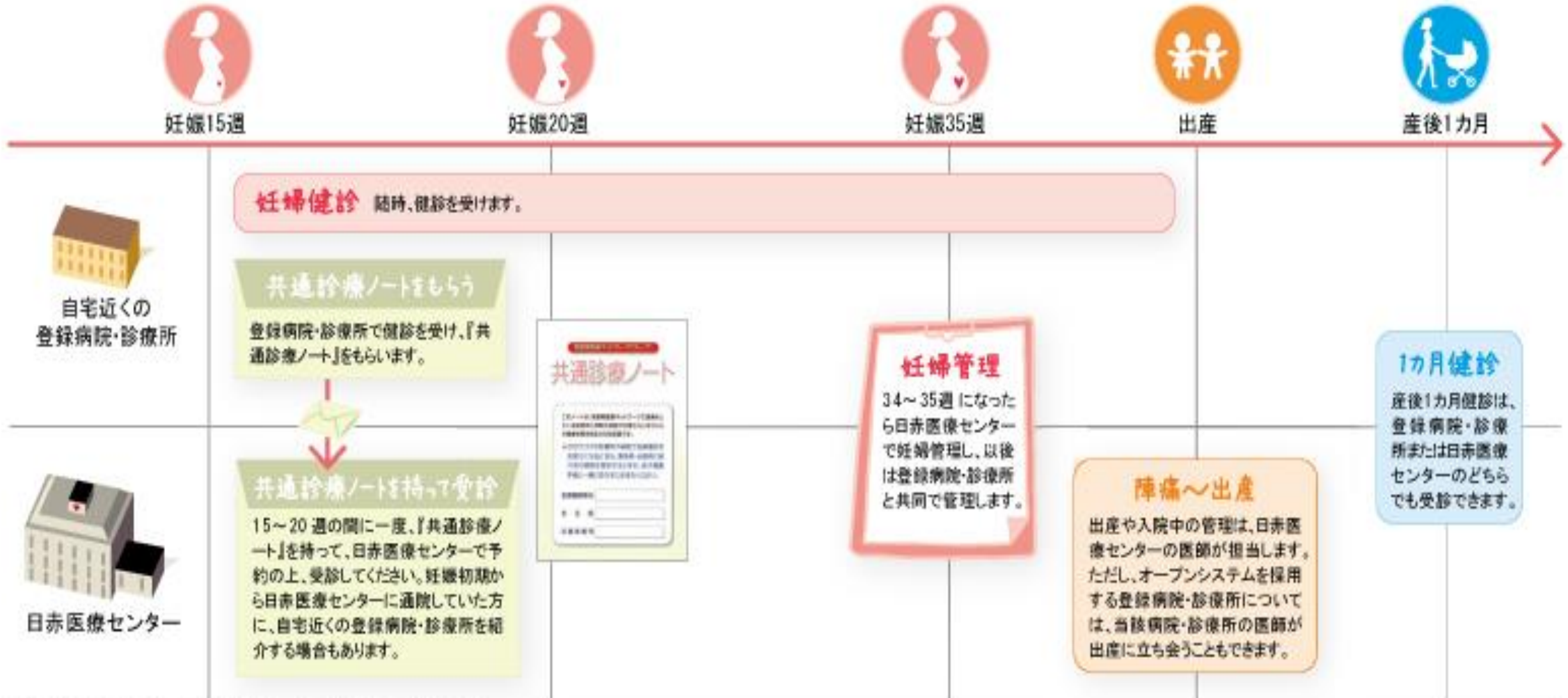
《オープンシステム》

地域の産科医療施設、**主に開業助産師**と連携
妊婦健診を自宅や助産院で受診、病院でポイント健診を受ける
分娩は当センターで**開業助産師が介助**する

《セミオープンシステム》

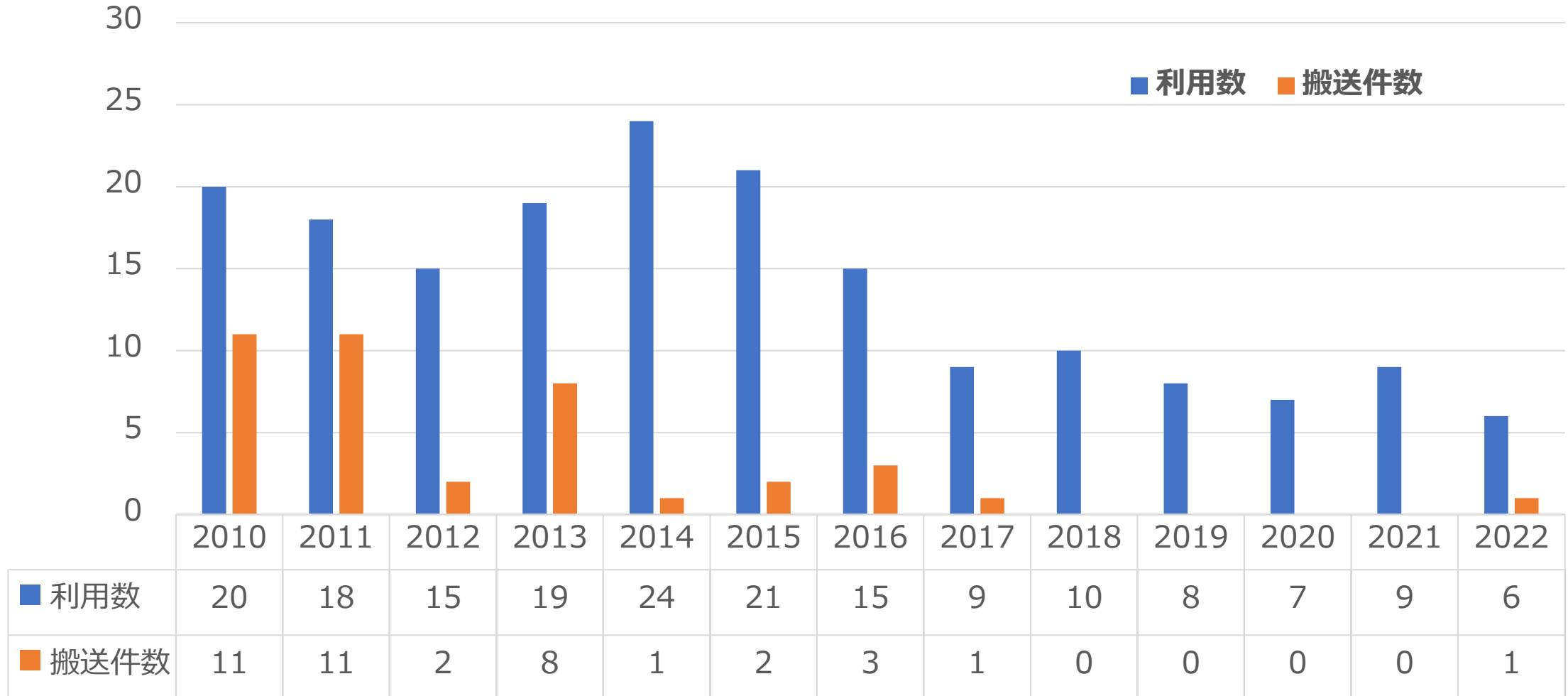
地域の産科医療施設、**主に医師**との連携を推進するシステム
健診は自宅・職場近くの通いやすい診療所で受診
出産は高度な設備を持つ当センターが引き受ける

周産期医療ネットワーク オープン・セミオープンシステム



*助産院の場合は、本システムとは別のオープンシステムをご案内します。

助産院オープンシステム利用者と 助産院からの母体搬送数の推移



2022年 オープンシステム利用状況

システム登録施設数	31施設
利用施設数	2施設
利用登録（妊婦）数	6名
利用時期	5月～2月

2022年 オープンシステム統計

妊婦平均年齢	36.5歳 (MAX45歳)	2021年度 32.4歳 2020年度 35.5歳
分娩歴	初産	4名
	経産	2名
分娩様式	経腔分娩	5名 側臥位 2名 仰臥位 3名
	帝王切開	1名

オープンシステムに期待するメリット

〈妊産婦〉

担当助産師のいる安心感、利便性、ケアに対する満足感

〈開業助産師〉

医療介入が必要な場合のバックアップが保証される

医師と共同管理が必要なリスク妊婦でも対応が可能

病診連携のための顔の見える関係が築ける

〈勤務助産師〉

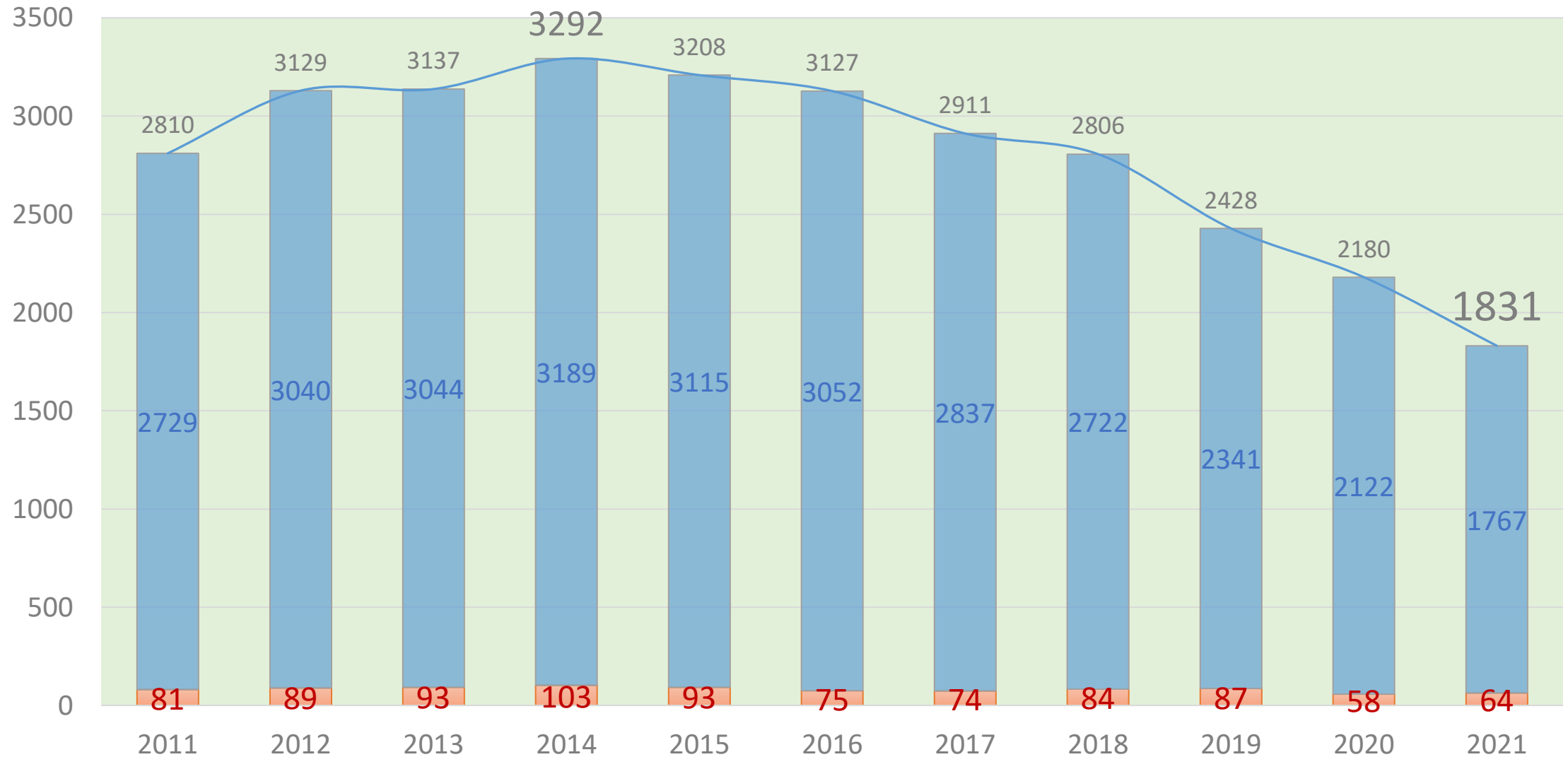
開業助産師が実践するケアを、実際に見ることで研鑽の機会となる。



日赤医療センター 周産期部門の挑戦

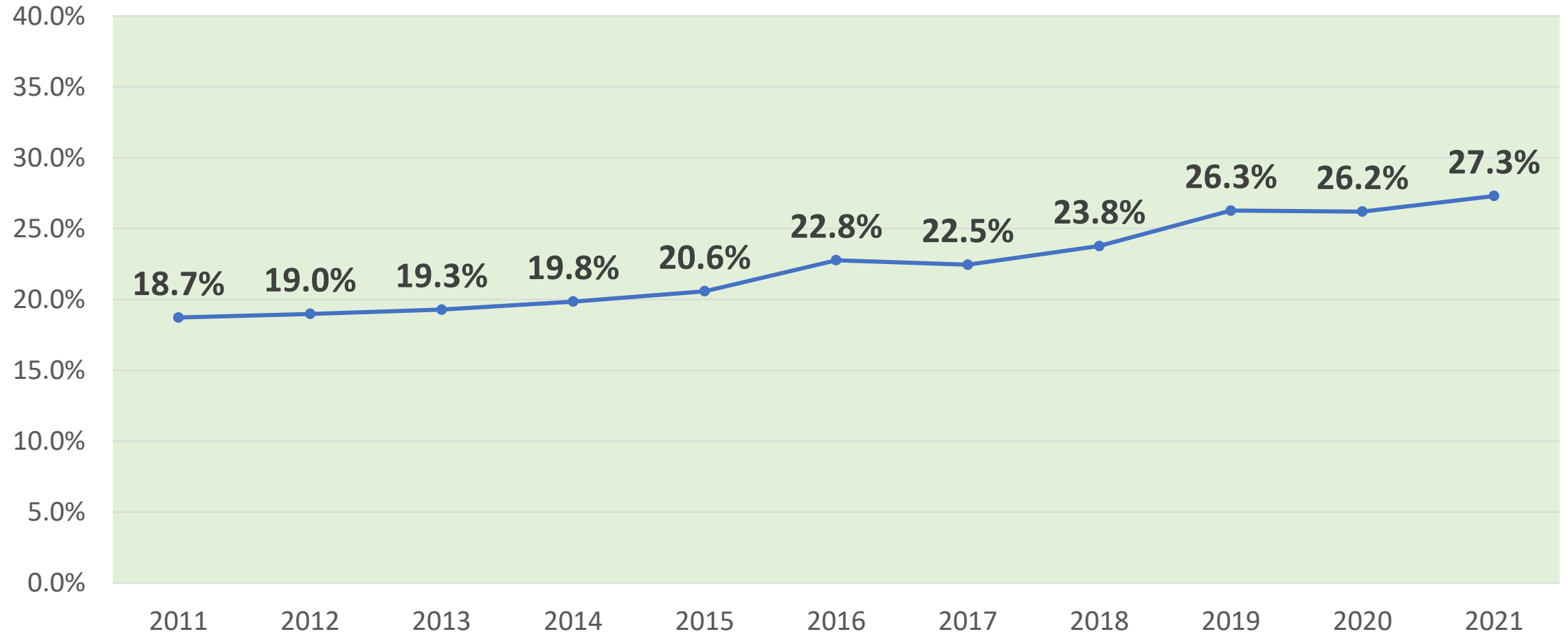
分娩件数 推移

多胎 単胎 22週以降分娩数

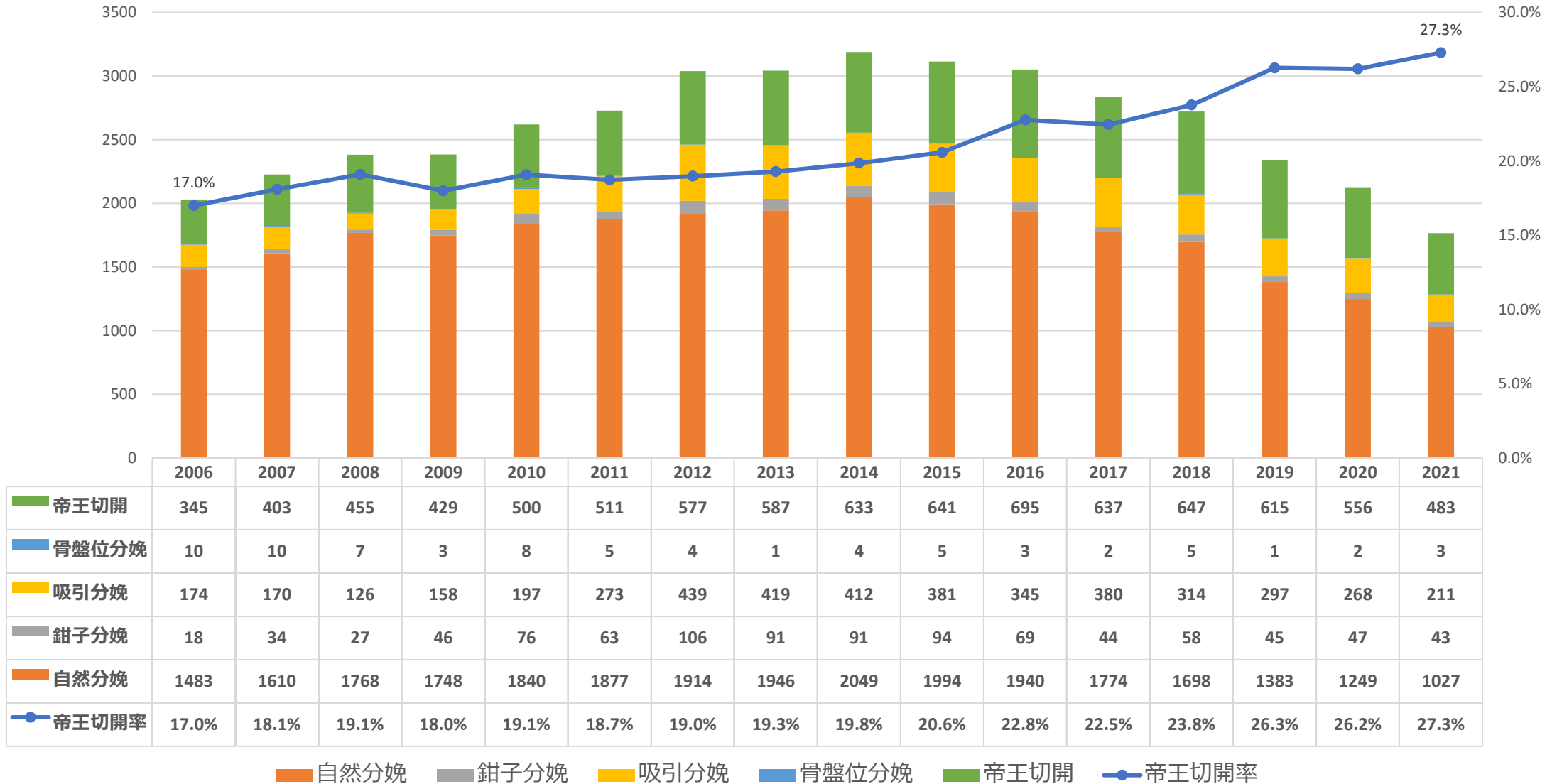


帝王切開率の変遷

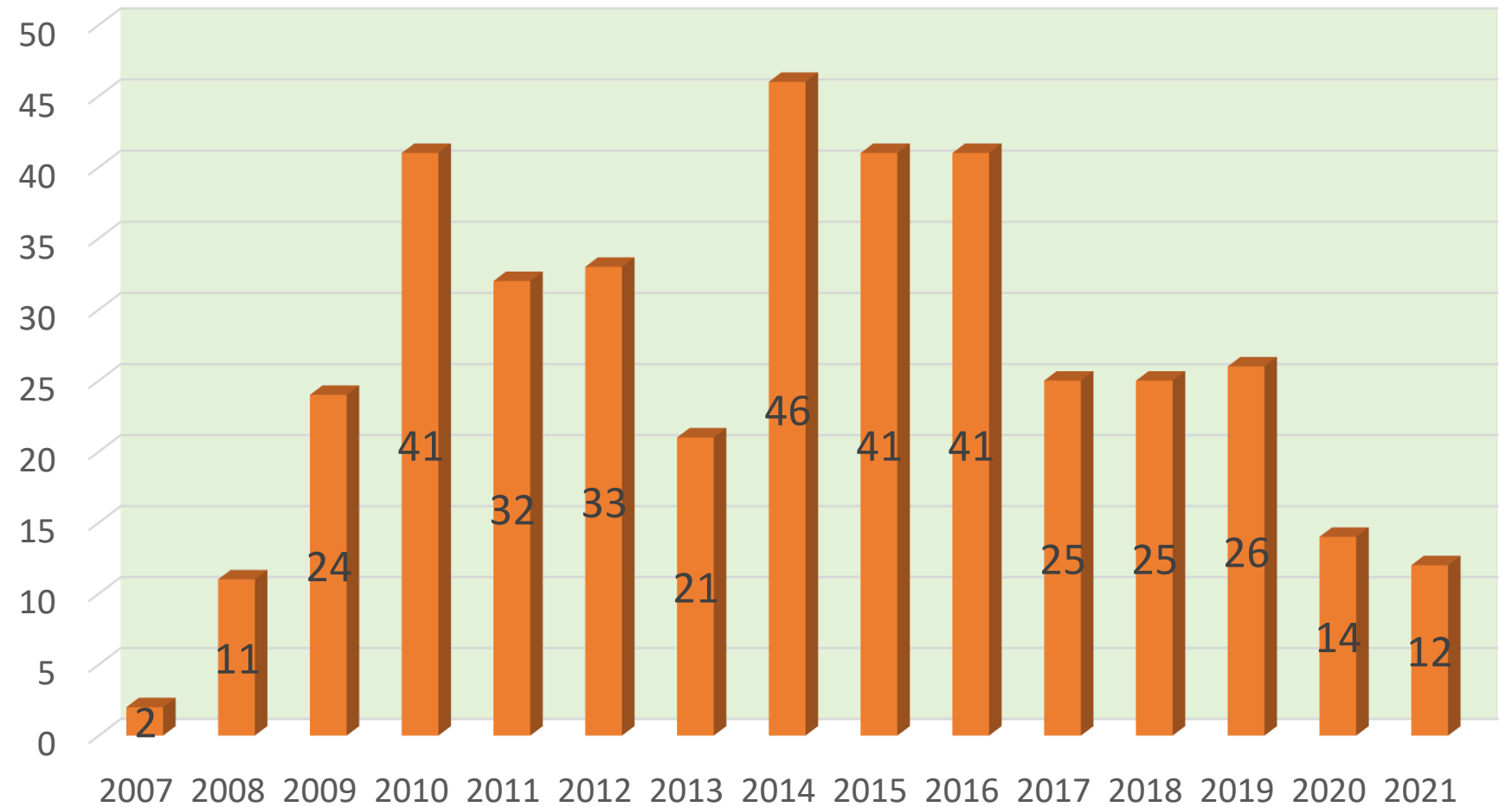
帝王切開率（単胎）



分娩様式と単胎帝王切開率

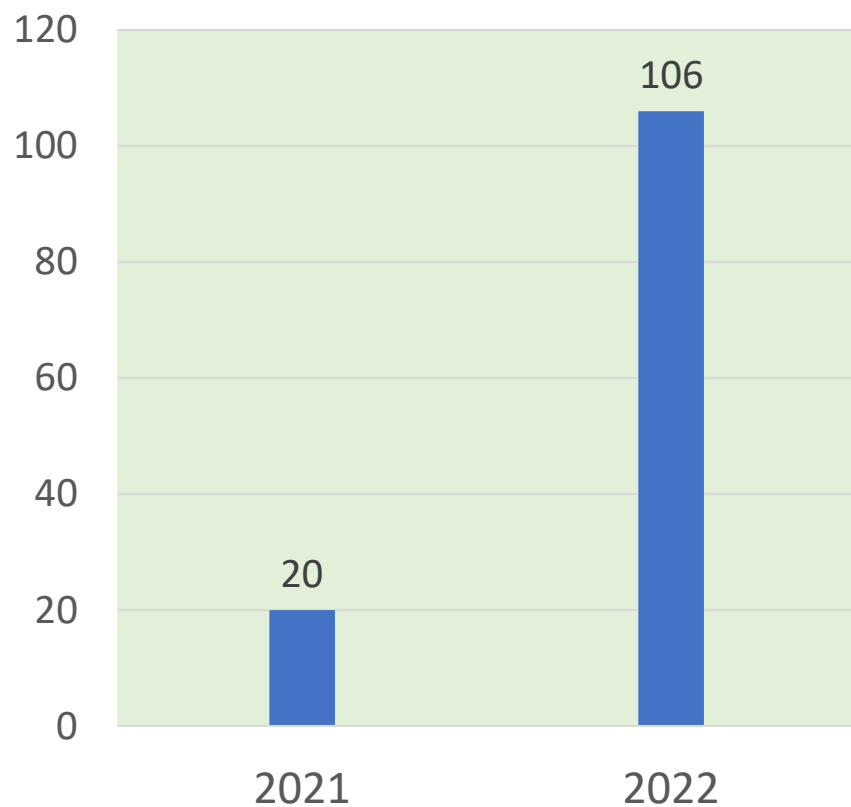


水中分娩



硬膜外麻酔分娩

2021年8月より本稼働



硬膜外麻酔分娩も

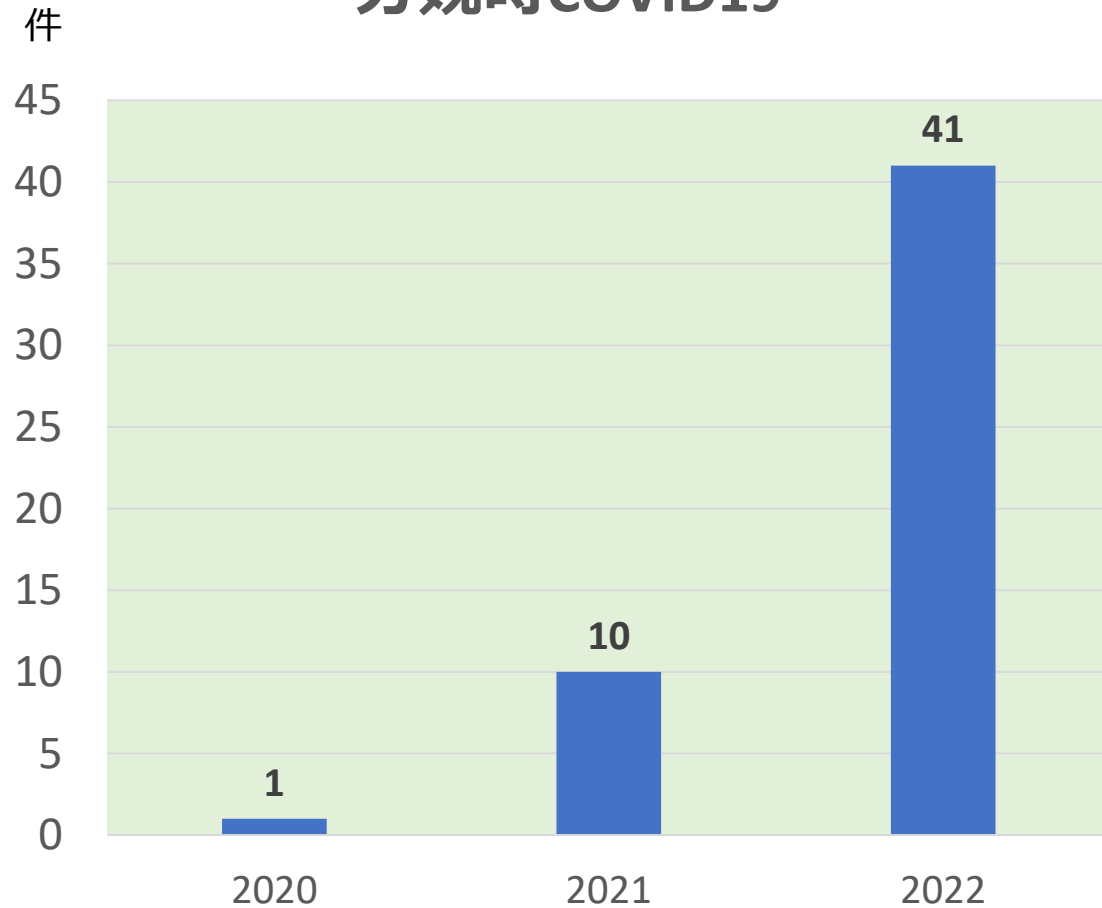
「フリースタイル」と同じ

産む人のニーズに寄り添う

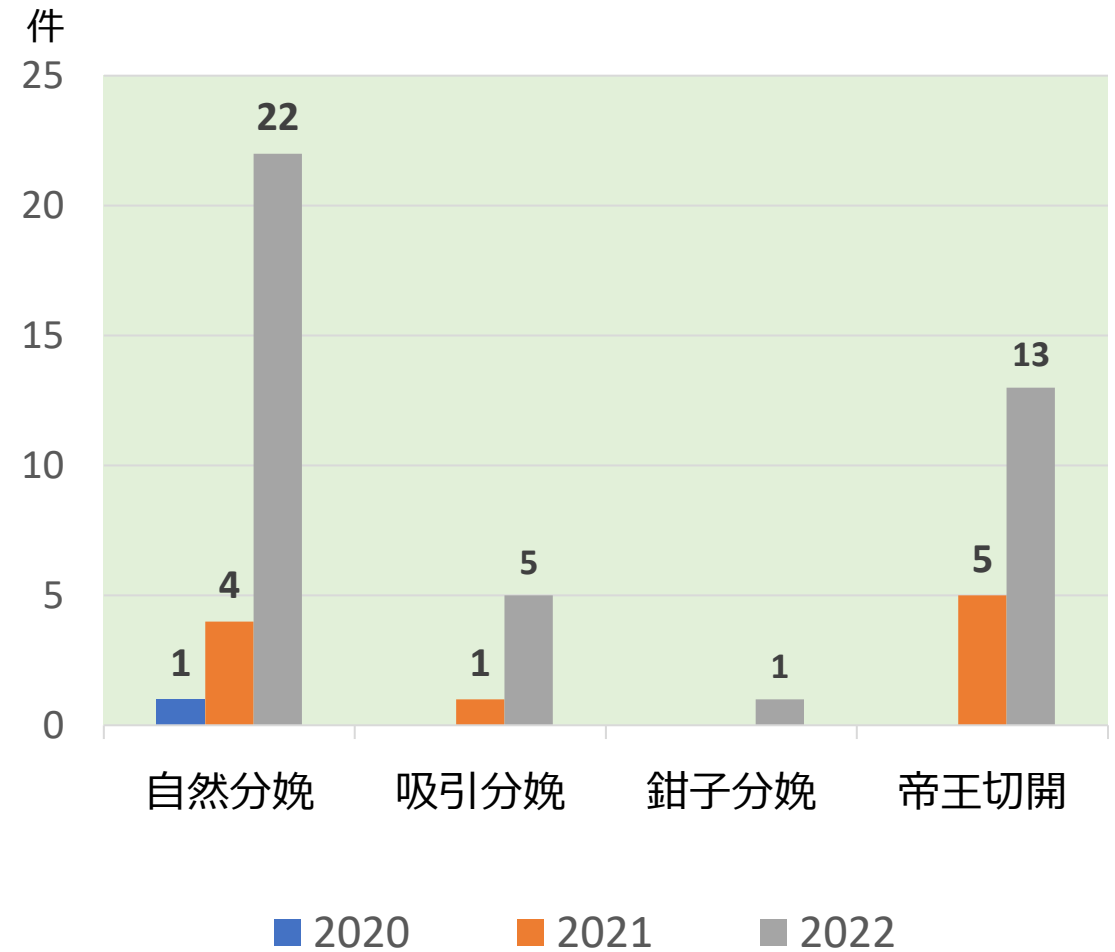
それが大事

COVID19陽性産婦のケア

分娩時COVID19

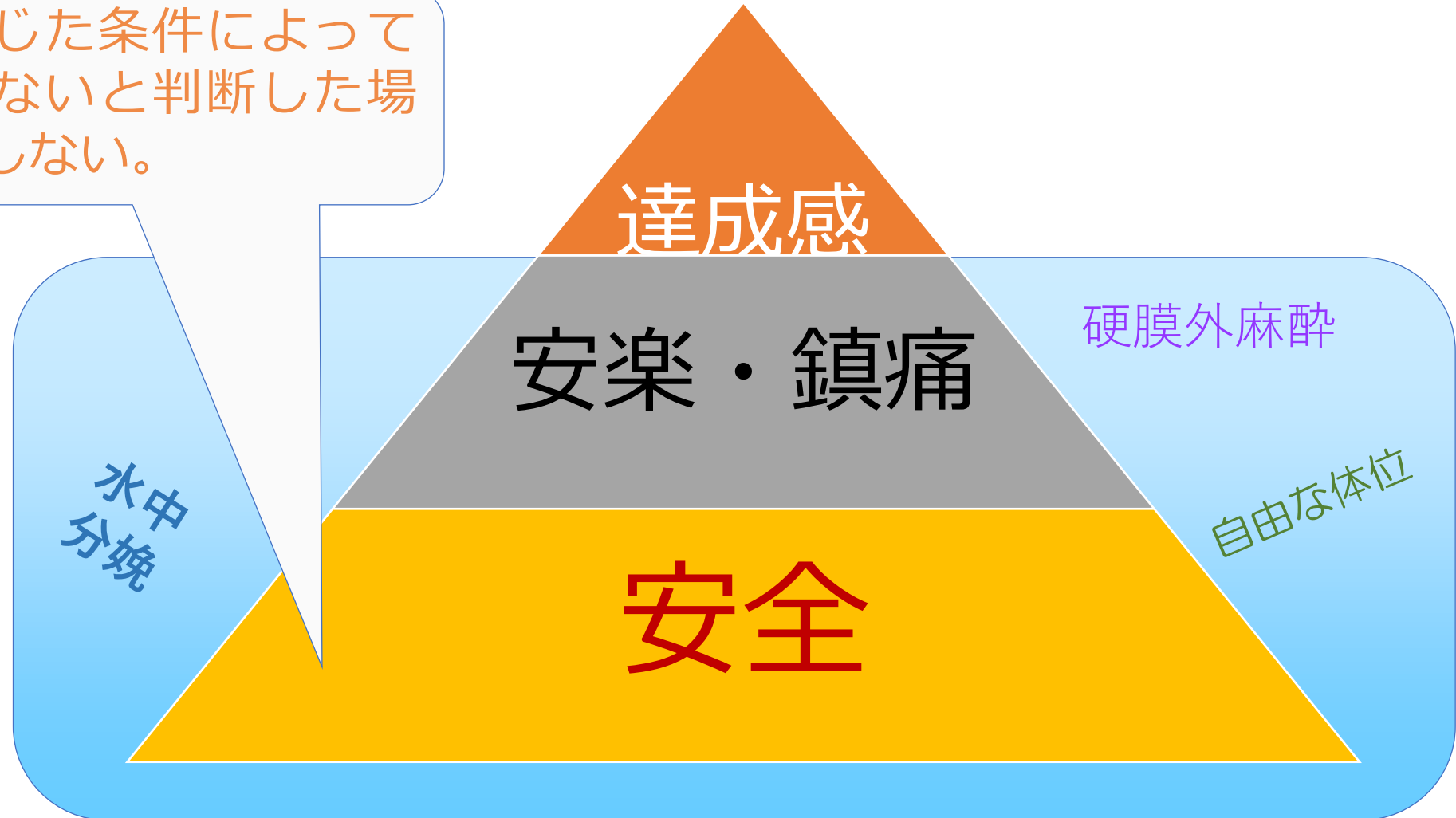


分娩方式



当センターが大事にしていること

分娩時に生じた条件によって安全が保てないと判断した場合には遂行しない。

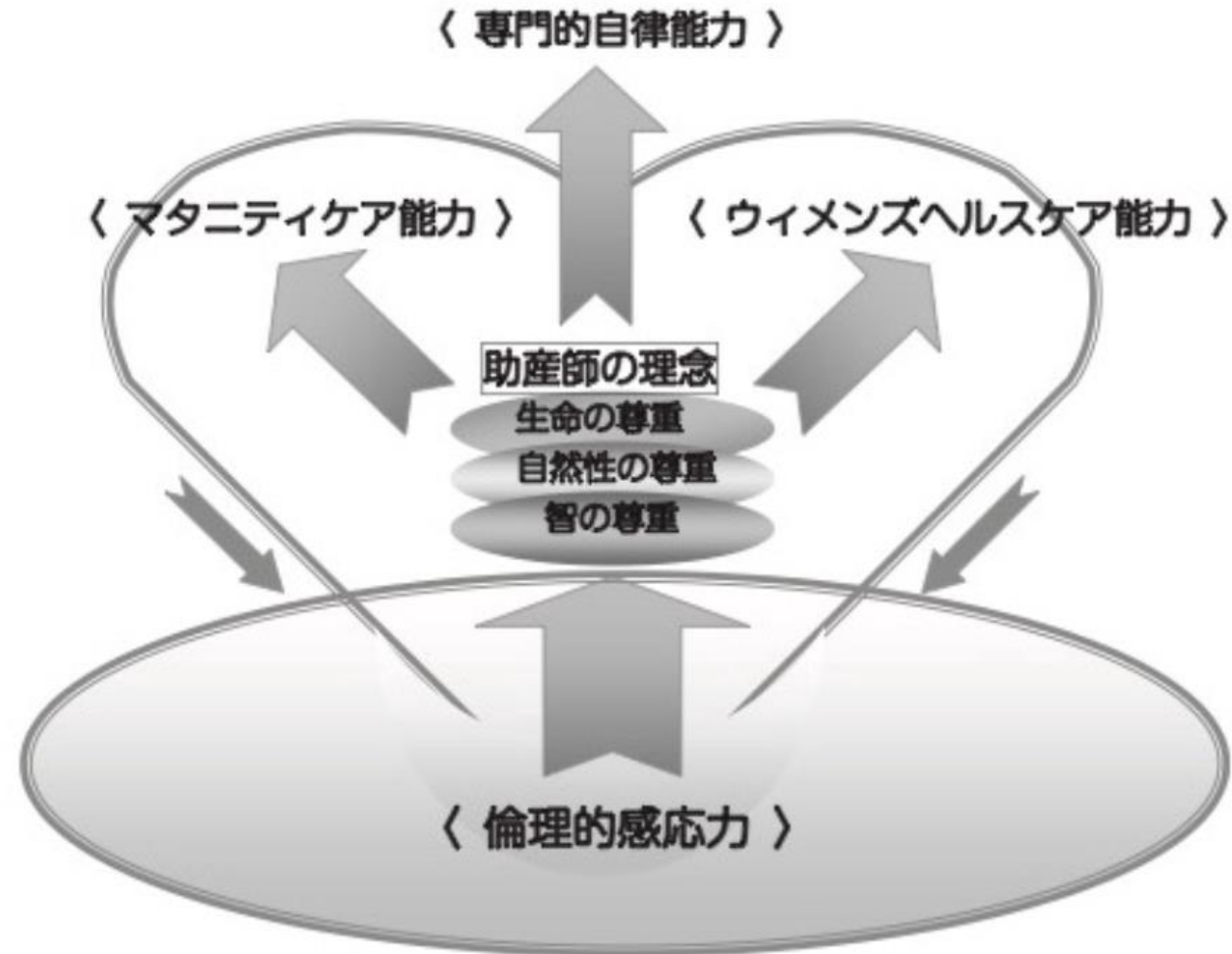


看護職としての実践能力向上が鍵



一般社団法人
日本助産機能評価機構HPより引用

2015年アドバンス助産師
認証制度開始



安全な妊娠・出産・育児を支援するために
助産師ひとりひとりが助産実践能力を上げよう！

発表の機会をいただきましたことに感謝申し上げます
ご清聴ありがとうございました